

「こおりやまの米」通信



郡山市
イメージキャラクター
「がくとくん」

Vol.5 「除草・防除・中干し」平成23年6月22日

編集:郡山市

JA 郡山市 (Tel. 921-0724)

NOSAI 郡山田村 (Tel. 933-3307)

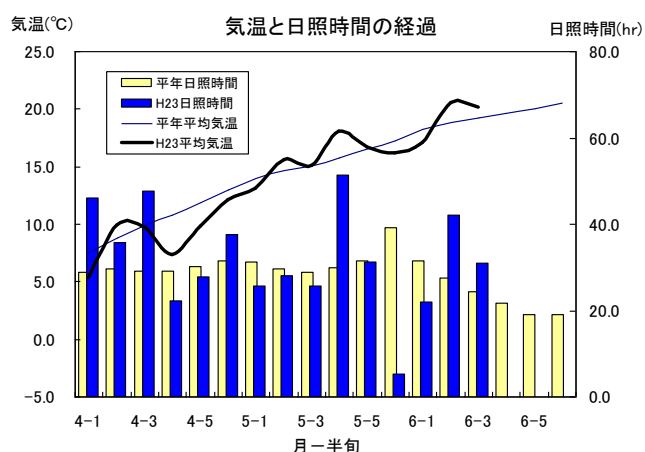
県中農林事務所農業振興普及部 (Tel. 935-1310)

発行:郡山市農作物生産対策協議会(郡山市営農推進課 TEL924-3761)

がんばろう ふくしま!

1. 生育概況

- (1) 田植時やその直後に強風にあたったほ場では、植え傷みが生じ、活着に時間がかかりました。5月下旬に田植が行われたほ場では、田植直後の低温の影響で生育が遅れています。6月21日の調査結果では、平坦は草丈が平年に比べやや短く、茎数は平年に比べ少なくなっています。湖南地区は草丈が長く、茎数は少なくなっています。ただし、田植時期、ほ場間、地域間でばらつきがあります。
- (2) ৈস্ৰুওম্‌শ্‌やৈত্ৰুওইম্‌শ্‌の発生は平年に比べ少なくなっています。



6月20日 生育調査結果

品 種	年 次	草丈 (cm)	茎数(本)		葉令
			株あたり	m ² あたり	
コシヒリ (三穂田)	本 年	34.0	21.8	382	7.2
	平年比・差	97 %	105 %	91 %	-0.6
ひとめぼれ (片平)	本 年	30.8	22.3	401	7.4
	平年比・差	90 %	86%	91%	-0.5
あきたこまち (湖南)	本 年	29.6	8.0	148	5.3
	平年比・差	107 %	72 %	62 %	-0.6

2. 天気予報

〈予想される向こう1か月(6/18~7/17)の天候〉 (6月17日 仙台管区气象台発表)

平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。向こう1か月の平均気温は高い確率が50%です。

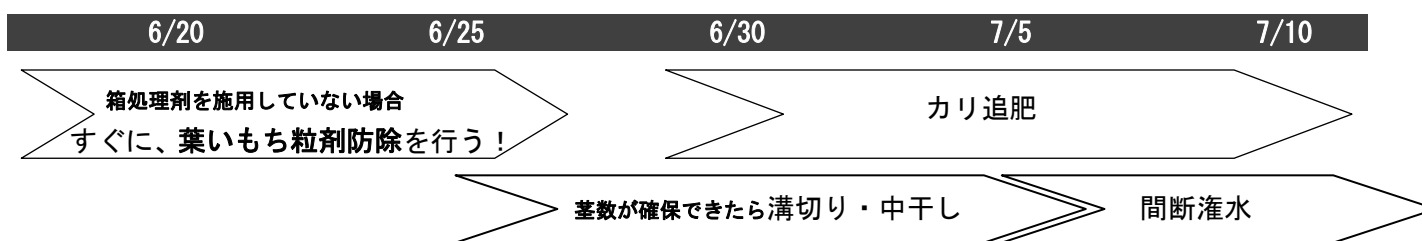
週別の気温は、1週目は高い確率が70%、2週目は平年並または高い確率ともに40%です、3~4週目は平年並または高い確率ともに40%です。

【3か月予報】(5月25日 仙台管区气象台発表から)

7月 東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

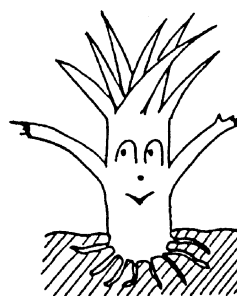
8月 東北地方は平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

3. 作業のめやす



4. 水管理 「溝切りと中干し」

- ① 茎数が少ないほ場では、引き続き浅水管理をおこない、分けつを促進してください。
- ② 株当たり20~25本の分けつ(有効茎)を確保したら中干しを行い、無効茎を抑えましょう。
- ③ あわせて、溝切り(4~5m間隔)をおこない、中干しを促進するとともに、その後の水管理を容易にしましょう。
- ④ 中干しは、幼穂形成期前までに終了し、その後は間断かん水を行いましょう。



*中干しは土壌条件、生育状態に合わせて行ってね!

溝切りと併用すると落水が早いよ!

中干しの効果

- (1)有機酸や硫化水素などの水溶性の有害物質の排除
- (2)土中に酸素を供給することによって土の還元をなくす
- (3)土壌中のアンモニア態チッソの低下をうながす
- (4)土壌を固くする
- (5)うわ根が出る



稲が開ちようして登熟を高める

根ぐされ防止 } 中干しは田面に亀裂が入り足跡がつく程度！

倒伏防止 } { 生ワラ施用田、粘質土壌 ⇒ 強めの中干し
生育過剰田

{ 地力のない水田 ⇒ 間断かん水で
砂質土壌 (弱めの中干し)

5. 葉いもち 「伝染源となる置き苗は今すぐ撤去しましょう」

東北地方は6月21日(平年6月10日頃)頃に梅雨入りしたと見られます。葉いもちに感染しやすい時期になりました。水面施用剤を遅れずに散布し、葉いもちの予防に努めましょう。

・まだ防除していない田

オリゼメート粒剤等は、**葉いもち防除のため、すぐに散布**しましょう。地区全体で予防防除を徹底しましょう。

すでに発生してしまったら、粉剤・液剤等で防除し、拡大を防ぎましょう。

・移植時にウィン、Dr. オリゼ、デジタルコラトップの箱粒剤(長期持続型)を使った田

7月中～下旬に、水面施用剤(粒剤)で、穂いもち予防防除をおこなってください。

6. 追肥 「カリ追肥で稲を丈夫に」

出穂40～35日前(6月下旬～7月上旬)に**カリの追肥**で、茎と根を丈夫にします。

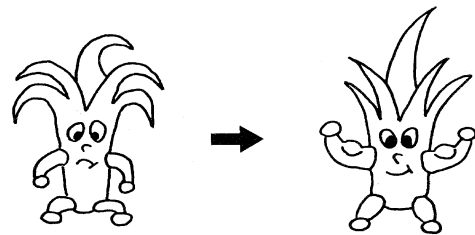
塩化カリ(出穂35日前) 7kg/10a:一般田

PK化成(出穂35日前) 20kg/10a:一般田

けい酸カリ(出穂40日前) 20kg/10a:でき過ぎた田、コシヒカリに有効

カリ肥料の働き

- ①稲の体を強くする。(いもち病等にかかりにくくなる)
- ②根の働きが良くなる。(下葉の枯れ上がりを防止する)
- ③水分の調節の役目を果たす。(落水による干ばつの抵抗性を強めている)
- ④籾殻を大きくしたり、籾の奇形が少なくなる。
- ⑤穂数、籾数、千粒重の増加が期待出来る。



*原発事故の影響下での農作物の作付に関するQ&A～稲の作付制限等～(農林水産省)より抜粋

Q. 稲等の作付が可能な地域で、収穫物への放射性物質の移行を抑えるために、現時点で農家が実施可能な技術としてはどのようなものがありますか。

A. 取組可能な技術の1つとして、**カリ肥料**を慣行より多く投入することが考えられます。例えば、水稻では、過剰害の出ない、基肥・追肥合計で20kg/10a程度を目安にして施用することが考えられます。

7. 雑草防除 「ホタルイ・アゼナ対策」

雑草が残った場合は、下表を参考に、防除してください。

雑草	イネの茎数	除草剤	使用時期	収穫前日数	使用上の注意
ホタルイ、アゼナ等広葉雑草だけ残った田	まだ茎数が足りない田	バサグラン粒剤	移植後15～50日	60日前まで	落水し、尻水口をしめて散布する
		バサグラン液剤	移植後15～50日	50日前まで	
	株20本以上確保した田	グラスジンMナトリウム粒剤	有効分けつ終時期～幼穂形成期前	60日前まで	
		グラスジンMナトリウム液剤	60日前まで		
広葉とヒエの両方残った田	茎数に関係なく使える ヒエは5葉期まで	クリンチャーバスME液剤	移植後15日～ノビエ5葉期	50日前まで	

※グラスジンMは分げつを止める作用があるので、茎数を確保してから使いましょう。

この資料は、平成23年6月21日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

次回発行予定(7月上旬) 内容:追肥・いもち防除・カメムシ防除・水管理等

農薬(特に粉剤・液剤)を使用する際は、近隣作物に飛散しないよう、注意してください。

*次回発行予定(7月上旬) 内容:追肥・いもち防除・カメムシ防除・水管理等